

会員数 59名
欠席者

 出席者39名・欠席者16名・免除会員9名
秋山恒・麻田・後藤・和泉享・加内・松山・岸上・中野昌・曾川
松村・大西信・尾崎・大山・齋賀・谷本・山本由・会員

前々回出席率 66.07%(11/6)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

 会長 和泉 清憲
幹事 細谷 誠
会報委員長 大西 信亮

お知らせ

- 12月のプログラム
 - 1 (No.1)-年次総会
 - 10 (No.2)-市民講座
 - 15 (No.3)-クラブフォーラム
 - 22 (No.4)-忘年会
 - 29 (No.5)-休会

- ニコニコBOX;
よいことがありました
秋山憲夫君

<ニコニコ会計累積/¥191,000>

- がんばるBOX;
なんとなく
和泉清憲君
健診頑張ります
塩田君
結婚何年目になるのかな?
中川君

<がんばる会計累積/¥105,000>

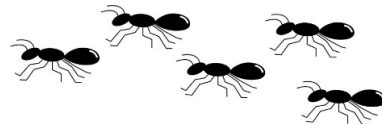
例会場・事務局

丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

■会長挨拶

組織の構成比

- ・「上位20%(意欲的に働く20%)」
- ・「中位60%(普通に働く60%)」
- ・「下位20%(怠け者 20%)」



- 人間の組織では、この比率を多様性と捉えなければならない。
- ・働きアリのうち、よく働く2割のアリが8割の食料を集めてくる。
 - ・働きアリのうち、本当に働いているのは全体の8割で、残りの2割のアリはサボっている。
 - ・よく働いているアリと、普通に働いている(時々サボっている)アリと、ずっとサボっているアリの割合は、2:6:2になる。
 - ・よく働いているアリ2割を間引くと、残りの8割の中の2割がよく働くアリになり、全体としてはまた2:6:2の分担になる。
 - ・よく働いているアリだけを集めても、一部がサボりはじめ、やはり2:6:2に分かれる。
 - ・サボっているアリを排除しても、残り8割の中の2割がサボりはじめる。
 - ・サボっているアリだけを集めると、一部が働きだし、やはり2:6:2に分かれる。
- この働きアリの例を組織エンゲージメント(従業員の会社に対する愛着心や思い入れ)に置き換えると、組織のエンゲージメントの構成は2:6:2に分かれます。エンゲージメントが高い人が2割、普通の人が6割、低い人が2割という感じです。

■例会事業;会員卓話;横田龍男会員

本日は約100年前にセントルイスにて制定されました(決議23-34号)時のタイトル【ロータリー運動の目的とする活動に対する方針を再確認し、国際ロータリーとロータリークラブにおける今後の基本原則を定める】について紹介します。

ロータリアン、ロータリークラブの指針として以下の諸原則が採用とされる。

ロータリーとは

ロータリーとは人生哲学である。「超我の奉仕」—奉仕の哲学。「最も多くの奉仕をする者、最も多く報いられる」—実践的な倫理原則。

ロータリークラブとは

奉仕の理論が職業、人生における成功と幸福の基礎であることを団体で学ぶ。実例を団体で示す。(研究室の実験で示す)個人としてこの理論を実践する。

ロータリアン、それ以外の人々にその行った実例を受け入れるよう推奨する。

国際ロータリーとは

- ・奉仕の理想の擁護、育成と普及。
- ・クラブ設立、激励、援助、運営管理
- ・情報の交換所として強制ではなく助言を与える。

奉仕理論の実践とは

ロータリー哲学も主観的なものであってはならず、それを客観的な行動で表すロータリアン個人もクラブも実践しなければならない。(中略)

ロータリークラブの絶対的自治権

活動内容はクラブで決定とする。しかし、ロータリーの目的を無視したり、クラブの結成を危うくするような活動は行ってはならない。RIはクラブの活動に対し、命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならない。



(裏へ続く)

奉仕活動の選択

- ・他の機関が行っているものを横取りしてはならない。ただし、その活動が素晴らしいものであるならば、個人として参加すべきである。
- ・どんな立派な事業であってもその遂行に対し責任を負う容易と意思がないなら後援をしてはならない。
- ・宣伝が主目的の活動はしない。
- ・他の機関が行っている事業は取り組まない。(事業の重複は避ける)
- ・活動はなるべく現存の機関の事業に協力することが望ましい。
- ・ニーズを発見しても地域社会全体の責任かかわるものには手を付けてはいけない。クラブに帰すべき功績があっても、功績は他者へ譲る。
- ・団体奉仕よりも個々の活動がロータリー精神にかなっている。クラブ活動は会員に奉仕の実践を教える。いわば研究室での実験である。

その後、長い年月が経過し、ロータリー自体の活動・考え方も時代の変化に伴い1992年規定審議会は、社会奉仕に関する声明を採択した。ロータリーの社会奉仕とは一人一人が生活に奉仕の理念を適用する事。奉仕の理念を実行することはクラブが開発して会員にその機会を与えてきたロータリアンの指針として活動方針を明確にするために次のようにまとめた。

社会奉仕はロータリアン一人ひとりが「超我の奉仕」を実証する機会であり、社会的責務である。

- 1: 奉仕の機会を調査し、会員に地域のニーズを検討させる。
- 2: 実施に当たっては職業能力や趣味を生かすこと。
- 3: ささやかな事であっても地域のニーズを汲み、クラブの立場や力量を考慮して取り組む。
- 4: 社会奉仕活動にはロータリークラブが提唱するグループと緊密に協力する。
- 5: 国際レベルの活動を通じ社会奉仕プロジェクトを強化する。
- 6: 実行に当たっては地域社会の参加を求める。
- 7: 目標達成ためには、他の団体と協力する。
- 8: プロジェクトが社会に認められるようにする。
- 9: 他の団体の参加を促進する役目を果たすこと。
- 10: もし適当であるなら他の団体に継続中のプロジェクトを委譲する。

第一に考えなくてはならないのが、会員一人ひとりがロータリーをどのように捉えているのか、その中でどうあるべきかを再認識しなくてはいけない。周りの人から「ロータリーって何？」と問われた際、自身の言葉で説明することこそが会員増強・理解に繋がって行くものだと思います。

■会員自己紹介

山内 孝茂(やまうち たかしげ)会員

<会社名> 株式会社モンテサービス

<事業内容> 「地球にやさしく人にもやさしい総合ビル管理業」として、SDGsや健康経営優良法人として取り組んでいます。

<好きな言葉> 雲外に蒼天あり

<やりたいこと> 旅をしながら酒蔵を巡ったり、焼き物作り(陶芸)をしりたいです。

